

懸け橋として、地域と世界をつなぐ

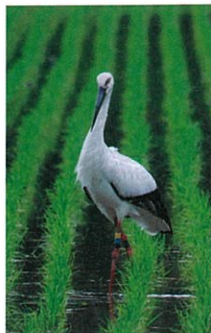
2回にわたって農家の野世さんにお話を伺います。



連載コラム ～自然とともにやさしく～ 風のコラム

「コウノトリの舞う町から」

初めまして。兵庫県の日本海側に位置し、コウノトリ但馬空港がある豊岡市で農業を営みながら無添加石けんを作っている野世(のせ)と申します。コウノトリと暮らす豊岡の暮らしについて2回に分けてみなさんにお届けできればと思います。



コウノトリ但馬空港から車で約30分。私の住む但東町(たんとうちょう)は中山間地域にあり、水が綺麗で、川にはオオサンショウウオ、田んぼには、ヤゴや、ゲンゴロウが多く住んでいます。私はこの地域で、「コウノトリ育む農法」という農法で、主にコシヒカリと、赤米の栽培をしています。「コウノトリ育む農法」は、農薬や化学肥料を使用せず、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法で、栽培している田んぼやその周りには、多様な生き物が多く生息しています。その生き物たちが餌となるため、コウノトリも舞い降りてきます。



スーパーに行けば何でも揃う時代。季節に関係なく便利な日用品がすぐに手に入ります。しかし私は肌が弱く市販されている石けんを使うとかゆみが出たり湿疹が出たりすることがあります。それをきっかけに、自ら安全で安心なものを作ろうと、「コウノトリ育む農法」で栽培したお米のぬかを使った無添加の石けんを手作りしています。特に赤米のぬかには、美肌効果の期待できる成分がたっぷり含まれているため肌に優しく、もちもちしたお肌に導いてくれます。赤いお米の色素は、ポリフェノールで、食すと味わったことのないようなお赤飯の本来の味に出会えます。

自然の中での農作業は、体力的にも大変です。疲れて田んぼの畔(あぜ)に腰を下ろすと、さわやかなそよ風、虫の声、広い空の中にのんびり動く雲、山々の移り変わる景色、そしてお米の成長。都会では実感できないのどかなひと時が、体と心を癒してくれます。自然とともに農業に取り組み、自然の恵みを感じる商品づくりを通じて出会える、家族の笑顔、お客さまの笑顔がとても励みになっています。

野世 英子

(「人、自然にやさしいお店 moko」代表)

兵庫県豊岡市出身。結婚・出産を機に、より安全で安心な食べ物を家族に食べてほしいという想いで「コウノトリ育む農法」を開始。無農薬で栽培した赤米・コシヒカリを使用した商品開発等、自然を心から感じてもらえる活動に取り組んでいる。



～表紙クイズの答え～

正解は・・・③です。

翼の前方に取付けられている黒い部分は、翼に付着した氷を取り除くために取り付けられている「除氷装置」であり、通称「ブーツ」(deicer boots) と言われています。

翼に氷が着くと、翼の型が変わってしまい、翼が作り出す飛行機を浮かせる力(揚力:よりよく)は減少し、抗力(空気の抵抗)が増加してしまいます。そこでブーツを使って、氷を取り除きます。

では、ブーツはどのようにして、翼に着いた氷を取り除くのでしょうか?

ブーツは軟らかく、しなやかなゴムと管状の空気室で構成され、外側は合成ゴムで作られています。エンジンからの圧縮空気によりブーツの管状の空気室が膨張、収縮を繰り返すことで、翼に着いた氷を割り、空気流により飛ばされることで氷を取り除きます。

気温が低く上空で氷が発生する環境の場合は、ブーツを作動させています。よろしければ翼の前方をご覧くださいね。

(解説:整備部 運航点検整備グループ 垣花)



↑膨張前

空気室が膨張した時の様子→

カリブの空でも、元気いっぱい!

～JACを卒業したSAAB機の今～

今回は航空機の物語についてご紹介します。

ATR就航に合わせて、JACで活躍するDHC8-Q400とSAAB340Bの2機種は現在順次卒業しています。日本で第一線を退いた機体は、

- ・新たな航空会社で使われ続ける道
- ・次の使用が決まるまで保管される道
- ・部品に解体される道

と一機一機様々なドラマがあります。1992年にJACのSAAB340B初号機として迎えた機体番号JA8886は、2016年に日本での24年の役目を終了しました。

現在この機体は地球の反対側でカリブ海のキレイな海の上を元気にフライトし続けています。

ただ今、JACでは3機種の航空機による空の旅をお楽しみいただけます。皆さまのご搭乗をお待ちしております。



アメリカへ向かう途中のJA8886 (2016年4月)

ルリーからみなさまへお知らせです♪

JACのホームページをこのたびリニューアルしました。ぜひみなさん遊びにきてください。

<http://www.jac.co.jp/>



どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

Vol.5

JAC NOW

～ゆいタイム～



新造機(JA02JC)がフランスから鹿児島県に向けて出発!(2017年9月)

クイズ: 翼の前側の黒いものは何かな?

- ① 太陽光の反射(はんしゃ)を防ぐもの
- ② 風の抵抗を緩和(かんわ)するもの
- ③ 氷を取り除くもの

(こたえは裏面へ。)

お手にとってください、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、社員手作りの機内情報誌を2016年秋より発行しており、今回、第5回目の発行となりました。お客さまとつながるゆい「結い」の時間を、そして、地域航空として各地域を「結ぶ」情報をお届けしたいという想いを込め、ゆいタイムと名付けております。ふたつとない今日のこの空の上でのお客さまとの出逢い。ゆい「唯」タイムを、『JACNOW～ゆいタイム～』を通じて、優しく心つながる時間として、お過ごしいただけましたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞお気軽に、客室乗務員までお寄せください。

また、バックナンバー(vol.1～4)をご覧になりたい方も、どうぞお気軽に客室乗務員までお声掛けください。



みなさまへ

本日もJAC便にご搭乗くださいましてありがとうございます。

今回は私が航空会社に入社したきっかけについてお話をさせていただきます。

今から約50年前、私は父の仕事の関係で4年間家族とドイツのハンブルグで暮らした時期がありました。ハンブルグに暮らし始めた頃は語学もわからず、友人もできず、学校の授業にもついていけない状況が続き、また当時のドイツ人の日本に対する理解も薄かったことから日々の生活に馴染めずにおりました。ある日、校庭で一人空を見上げると、ちょうど学校の斜め上をハンブルグ空港に着陸しようとしている鶴丸を付けた飛行機を目にしました。何気ない瞬間でしたが、落ち込んでいた私の心を励ましてくれました。この経験が契機となり、不思議なもので、その後は前向きに生活できるようになりました。そして、外国の方に日本をもっと知ってもらうために、日本と外国の文化の懸け橋になりたいと思うようになりました。このことがきっかけで航空会社に入社し、今なお、その想いは変わりません。

JACが運航する奄美群島の素晴らしい自然の数々は、国内だけでなく海外からも注目されており、毎年多くの方に訪れていただいております。JACは島々の魅力を内外に発信し、多くの方に感じていただける懸け橋として、豊かな自然の持続と地域の発展に貢献していきたいと存じます。

引き続き、JACを宜しく願い申し上げます。

日本エアコミューター株式会社
代表取締役社長 加藤 洋樹



ご搭乗ありがとうございます。屋久島を担当しています就航地域リエゾン室の山口です。今日は屋久島についてご紹介します。

屋久島の森は、島の多くを占める「花こう岩」の上に息づいています。みなさまのお住まいの地域にも花こう岩の山が身近にある方もいらっしゃるかもしれません。花こう岩は、マグマが地下で堆積岩などに接触しながら冷えることでできます。周囲の岩体より比重が小さく、ゆっくりと地表に姿を現すとされています。2,000m級の山々を従えて現れた宮之浦岳山頂の8月の平均気温は15℃、年平均気温は7℃程度です。山頂の気温は海面より約12℃低く、周囲の風が屋久島で巡り合うと、上昇し冷やされ雲となり、恵みの雨になります。2月の山頂の最低気温は-4℃ほどのため、登山口への道路が積雪や凍結で閉ざされることもあります。

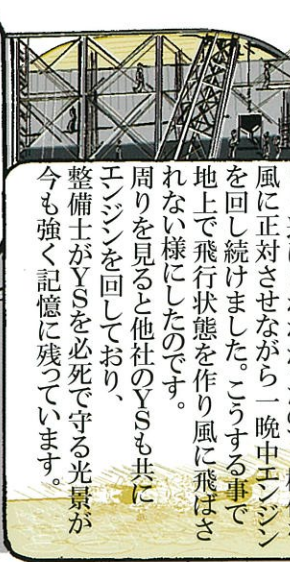
冬は雪の縄文杉も魅力的です。屋久島の美味しい食材も豊かな季節です。「屋久島里巡りエコツアー」といって、屋久島の歴史や文化、自然とともに生きてきた地元の方と触れ合う機会もございますので、ぜひみなさま一度ご参加ください。

冬ならではの魅力たっぷりの屋久島でお待ちしております。

就航地域リエゾン室 山口 和哉



1992年
格納庫が
鹿児島に完成し、
社員数も
数百名
となった



YS-11
(通称:YS)
(1988~2006年)



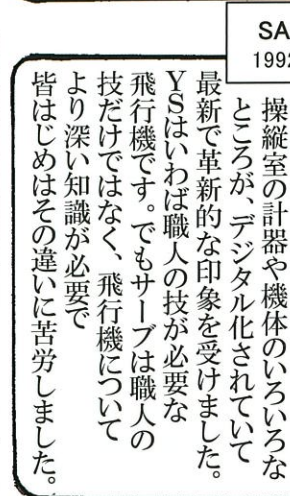
1992年
鹿児島島に台風が直撃した時
数機のYSと共に大阪伊丹空港に
避難したのですが、台風が進路を
変え伊丹に来てしまいました。
もう逃げられなかったため、機体を
風に正対させながら一晩中エンジン
を回し続けました。こうする事で
地上で飛行状態を作り風に飛ばさ
れない様にしました。
周りを見ると他社のYSも共に
エンジンを回しており、
整備士がYSを必死で守る光景が
今も強く記憶に残っています。

運輸整備室長
井上

当時は
暑い日も
寒い日も
外で整備をして
いたなあ

当時を語る

2002年には
YSの退役にともない、
ジェット機に劣らない性能を
もった、高性能旅客機
Q400が導入された



SAAB340B(通称:サーブ)
1992年~現在少しずつ退役中

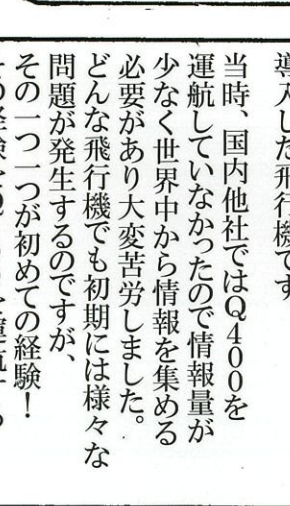
サーブは
スウェーデンのサーブ社製で
36人乗りの飛行機です。
サーブを初めて見たときは
YSと比べて、次世代の
飛行機だと感じました。
操縦室の計器や機体のいろいろな
ところが、デジタル化されていて
最新で革新的な印象を受けました。
YSはいわば職人の技が必要な
飛行機です。でもサーブは職人の
技だけではなく、飛行機について
より深い知識が必要で
皆はじめはその違いに苦労しました。

整備業務グループ長
山原

当時を語る

ドルニエ、YSと2機種が
運輸する中、
路線拡張に伴い
当時最新鋭のサーブが導入された

まだかな~
こうした努力が実りQ400は
世界トップクラスの品質を誇る
良い飛行機に成長しました。



DHC-8-402
(通称:Q400)
2002年~
現在少しずつ退役中

Q400はカナダの
ボンバルディア社製で
国内ではJACが初めて
導入した飛行機です。
当時、国内他社ではQ400を
運航していなかったため情報量が
少なく世界中から情報を集める
必要があり大変苦労しました。
どんな飛行機でも初期には様々な
問題が発生するのですが、
その一つ一つが初めての経験!
その経験をQ400を運航する
世界中の航空会社や製造会社など
と共有し情報交換する事で飛行機
はとて良くなっていくんですよ。

整備管理グループ長
並木

当時を語る

たくさん
社員が見守る中
JACの翼と
して活躍する
Q400を
迎えた日を
今でも鮮明に
覚えている

来た!
来た!

やあみんな!
招待してくれて
ありがとう!
JACの色々な
思い出がよみがえって
きて懐かしく思うよ。



これからATRと
共にJACの新しい
歴史を築いていつ
か期待して
いるよ。

お元気でしたか?
おひさしぶり
です!
やあ翼じゃ
ないか!

崎山さん
崎山さん



社長 加藤 洋樹

JACは
このATRで
全てのお客さまに
さらに満足して
いただける快適性を
提供します



2017年3月ATRお披露目会(鹿児島空港JAC格納庫)

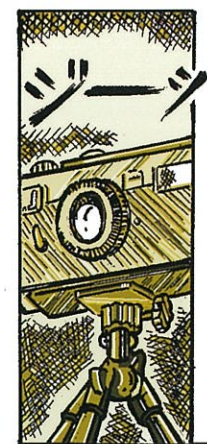
JAC 空の上の 航空教室

NO.5 思いをつなぐ翼

こちらが新機種の
ATR42-600
型機です

思い起こせば
34年前
JACは島と島を結ぶ
翼となるため
1983年、奄美で発足した。
わずか19人の社員と
3機のドルニエ228で
スタートした
小さな航空会社だった。
路線は奄美中心の離島路線で
当時、私は奄美空港で
勤務していた。

私は5年前に定年を迎えた。



ドルニエ228
(通称:ドルニエ)
(1983~1997年)



1988年
JAS(日本エアシステム)からの
路線移管に伴い鹿児島を拠点に
YS11の就航が始まった。
当時はこんな立派な施設はなく
プレハブの事務所を使っていた

ドルニエはドイツの
ドルニエ社製の飛行機です。
とても短い滑走路(800m級)での
運用が可能で飛行高度が低く
(約2000~3000m)
翼が客室の窓よりも上に付いて
いるので眺めがとてもいいんです。
また19人乗りのため
客室乗務員は乗っていない
んですよ。
機体にはハイビスカスの塗装が
されていて観光客の方に
とても人気でした!
ATRの塗装を見ると
当時の様子を思い出しますね。

当時を語る

福岡整備グループ長
下澤